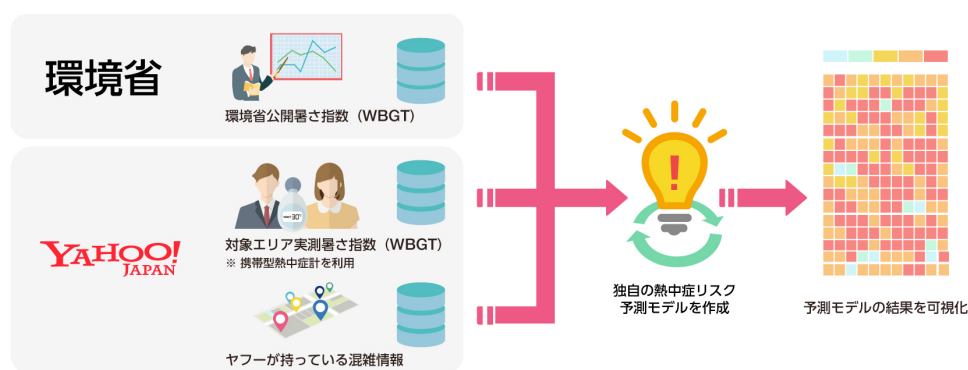


ヤフー、東京都と共同でAIを用いた熱中症予防に関する実証実験を開始

～位置情報ビッグデータを用いて混雑エリアの熱中症リスクを高精度に予測～



ヤフー株式会社（以下、ヤフー）は東京都と共同で、官公庁のオープンデータとヤフーのビッグデータ・AI技術を掛け合わせ、イベント会場など混雑する場所の熱中症リスクを高精度に予測する実証実験を、8月1日より都内にて開始します。

熱中症リスクの予測にあたっては、環境省が「環境省熱中症予防情報サイト」にて公開している熱中症予防を目的とした気温以外の要素も含む暑さ指数（WBGT）のオープンデータと、ヤフーが保有する位置情報ビッグデータを元にした、暑さ指数の上昇要因になるとされる混雑情報を用います。双方を掛け合わせたビッグデータをAI技術（機械学習）を用いて解析し、独自の熱中症リスク予測を約125m四方のエリア単位で行います。

混雑情報を掛け合わせることで、イベント会場およびその周辺など混雑するエリアで特に上昇する熱中症リスクを、ピンポイントかつ高精度に予測することを目指します。

実証実験を踏まえ、さらなる検証・改善を重ね、東京都の熱中症予防対策への活用を目指します。また、ヤフーによるサービス化も視野に入れています。

本実証実験は、東京都がビッグデータ分析技術の活用方法等の検討を行う「熱中症予測実証実験」の取り組みの一つです。

なおヤフーは、2018年2月に発表した企業間ビッグデータ連携に関する取り組み「データフォレスト構想」において、行政とのビッグデータ連携も重要な取り組みと考えています。行政との

ビッグデータ連携において、まずは本実証実験を含めた「街の再設計」に関する取り組みを積極的に推進してまいります。